



THE Y'S MEN'S CLUB OF KUMAMOTO

ひがし 2012 8

チャーター 2004. 4. 25 No. 100

C/O KUMAMOTO YMCA NAGAMINE FAMILY
 3-1-107 NAGAMINE MINAMI KUMAMOTO 861-8039
 TEL 096-385-0676 FAX 096-385-0649

TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPAINES EVERY RIGHT
 第1例会 第1月曜 熊本テルサ(19:00~21:30)
 第2例会 第3月曜 ながみねYMCA(19:30~21:00)

国際会長	主題 「世を照らす光となろう」 スローガン「恵みを愛もて分かち合おう」	Philip Mathai (インド)
アジア地域会長	主題 「歳月はY'sをワイズ(賢者)にする」 スローガン「行動が活力を呼び覚ます」	Oliver Wu (台湾)
西日本区理事	主題 「先頭に立ってワイズの光を輝かそうクラブで、地域で、国際で」	成瀬 晃三 (名古屋)
九州部部长	主題 「つながろう 地域とY 伝えようワイズスピリット！」	福島 貴志 (熊本)

熊本ひがしクラブ会長主題:「伝えよう奉仕の心、広げようワイズの輪」 吉本 敬一

第9期 キックオフ例会

三城賢士氏



九州部・福島部長



韓国・大邱YMCAスタッフ



今月の聖句

「主の使いはその周りに陣を敷き主を畏れる人を守り助けてくださった。」 (詩編34・8)

これは、今年6月に教会の角本牧師が入院中の夫に宛てておつてくださったことばです。初めて聞きました。そして支えられています。予想もしていなかったことが、次々に起こりました。起きないほうがいいと思っことばかりが。ただなかにあって動揺することもありませんが、それでも、わたしの心に不安や心配は少なく、明日のことまで思い悩むことなく過ごせていることを感謝しています。

神さまのご計画は人の思いを超えるとはいえず、人の目には望まないと思う出来事なかで、主の恵みはわたしを包み、主の陣は時を得て、幾重にも張り巡らされ、必ず守り助けてくださるのです。不思議なほど確実に。ただの一度も忘れられることなく。

詩編34編はダビデの詩です。このときのダビデはピンチでした。しかし、この詩が次のことばで始まっていることに驚き、ダビデの圧倒的な信仰に震えました。

「どのようときも、わたしは主をたたえ、わたしの口は絶えることなく賛美を歌う。」 (平山美保)

8月 強調月間

Youth Activities

7月例会	在籍会員数 21名	第1例会 16名	第2例会 7名	メイカップ 0名	
出席記録	例会出席率 76.1%	出席総数 41名	ネット、コメント 9名	ゲスト&ビジター 19名	

会長通信



弱さのなかに輝く真価

会長 吉本 敬一

この度、7月12日の熊本阿蘇大豪雨災害にて被災された皆様にはお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、九州部クラブの先陣を切りスタートした熊本ひがしワイズメンズクラブ7月キックオフ例会におきまして、吉本貞一郎YMC A理事長、堤総主事、福島九州部長をはじめ、他クラブの皆様、YMC Aの皆様、そして大邸YMC Aの職員の方々と多数のご参加いただき盛大に開催できたことに先ずは心よりお礼申し上げます。卓

話には今が旬と言いますか、若くしてこれからの熊本いや日本を引っ張っていくであろう三城賢士様にお話し「竹灯廊でまちおこし」のお話を頂きました。その中で東京「表参道」、「明治神宮」、「ミッドタウン」の屋外装飾などを手がけられ最近では「坂本龍一コンサート」の舞台装飾や東京「赤坂サカス」屋外演出なども行い、演出家として全国各地で「みずあかり」「竹あかり」の魅力を伝えているお話を聞くことが出来ました。お忙しいところ本当にありがとうございました。

その後、他クラブの例会訪問を次々とこなしながら各クラブのカラーといいますか特徴、雰囲気を感じていた頃、あの出来事は起こりました。「平成24年7月九州北部豪雨」と名付けられた大災害は「いままでに経験したことのないような大雨」と表現され、熊本を含む福岡、大分の三県で死者26人行方不明者6人という甚大なる被害を出した大災害となりました。

ワイズメンズクラブの会員にも被害が及び、自然の猛威の前には人間の力などはるかに弱い物である事を改めて痛感させられました。しかしその後のYMC Aや一般ボランティアを中心とした復旧作業への対応策と行動の速さには目を見張るものがありました。ワイズメンも同調し、一致団結した行動には本当に頭の下がる思いでした。我がクラブのメンバーの事業所にも被害が及びましたが、連絡網の徹底と意思統一されたメンバー間の信条と使命感により復旧への強い対応策と行動力は正にワイズダムの真価そのものでした。ワイズメンズクラブは本当に仲間であり、第二の家族です。

話は変わりますが今月の例会は8月ビアパーティーです。暑気払いのつもりでこの暑い熊本の夏をビールを飲みながらわいわいやりながら吹き飛ばしましょう。とくにいつもの例会形式の開会宣言や点鐘などはいたしませんので、硬い雰囲気は一切無しの楽しい例会になることをお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

第1例会報告

7月 キックオフ例会

EMC委員長 紫垣 正仁

まだ、梅雨の湿りが抜けぬ文月二日、韓国をはじめ、西日本区の幹部の方々、他クラブからも多数のゲストに、吉本新会長の船出を飾るキックオフ例会に参加して頂きました。いつもと少し違う雰囲気になんか少し緊張した面持ちの吉本会長でしたが、ユーモアを交え力強い決意表明がありました。

ゲスト紹介の後は、竹燈籠でまちおこしや環境保全活動をしている「ちかけん」の代表、三城賢士氏の卓話が始まり。若い感性で『案ずるよりも産むが易し』の精神で行動し続けてきた足跡を、熊本県内だけではなく、大分「臼杵」、香川「伊豆島」、奈良「東大寺」など全国のお祭りや施設の演出をはじめ、Mr. Childrenの「ap bank fes」での会場装飾、東京「表参道」、「明治神宮」、「ミッドタウン」の屋外装飾、最近の山のシュール「坂本龍一コンサート」の舞台装飾や、東京「赤坂サカス」の屋外演出を例に語って頂きました。どの話も興味深く、これからは演出家として全国各地で竹あかりの魅力を伝えていくと熱く卓話を締め括ってくれました。私の司会進行中、質疑応答も活発に行われ、会食へと移行。会食、歓談中も出席者同士の交流はもちろん、三城氏との後話にも花が咲いていました。

その後、韓国からのゲストの自己紹介、諸連絡をし、まさに“なごりはつきねど”で会を締めました。

吉本新会長の人柄も滲み出る、とても心温まる会でした。今後とも新体制の熊本ひがしクラブへのご助言、ご協力をあためてお願いし、キックオフ例会報告と致します。

